
くすぐられる
女たち


仲間とレベル上げのために「笑顔沼」に来た「女戦士ミア」だったが…
仲間とはぐれ…沼にはまり…「手」の形をしたモンスターに装備をはがされ裸にされてしまった
抜けない…
難易度は高くないフィールドって聞いてたから油断した
っていうか裸にしただけで何もしてこない？
恥ずかしいけど…
「グラウンドハンド」というそのモンスターは仲間を呼んでいた…
そして今…仲間が集まったところで…
ズブ…
ズブブブ…


ミアの腋の下を
くすぐり始めた
くはぁっ!?
あはは!
ちょっとなに!?
やめなさっ…い…!
急な
くすぐったさに
襲われ
グラウンドハンドを
払おうともがいたが
沼にはまった手足は
ガッチリと固定されて
動かない
あはは!
こちょ
こちょ
バタ
ジタ


その後も…
今度はお腹のあたりから
別の個体が現れて
わき腹をもみもみと
くすぐり始めた
うひひぃ！
もう！
このモンスター…
何が目的なのよ！
ぐひひぃぃ！
もみっ
もみっ
ジタ
バタ
グラウンドハンドの
目的とは…


直接攻撃によるダメージを
与えるわけではなく
集団で
性的な刺激などを
加え続けることで
対象の体力を
少しずつ奪い
んひゃあぁ！
ぎゃはは！
無理無理ぃ～！
いい加減に…
こちょ
もみっ
こちょ
もみっ
ぐぁはは！
バタ
バタ
最終的には
沼に引きずり込んで
絶命させることである


じゅぼ
ぐに
ぐに
んあぁ!?
今度は何!?
あぁ…っ♡
はぁ
はぁ
あは…ん♡
やめろぉ…ぉ
この変態モンスターっ!
ガク
じゅぷ
ガク
気持ち良さを感じつつも
ミアの体力は少しずつ
奪われていった


ミアは性的な刺激と激しいくすぐりに悶えながら
はぁ…ん♡
ぐに
ぐに
んひぃっ！
いひひぃ！
苦じぃぃ～！
はぁ
はぁ
ぐしししし！お前たちなんて…
「このは」が魔法で焼き払って…ぎひひぃ～！
こちょ
もみっ
こちょ
もみっ
じゅぷ
がく
がく
仲間が助けに来ることを信じていた


一方ミアの仲間
「魔法使いの
このは」も…
同じく沼にはまり
装備を取られ
魔法も使えない状態で
ちょっと何なの
このモンスター!?
あはは!
やめてやめて!
ミアちゃん
助けてぇ~!
きゃはは!
バタ
バタ
こちょ
こちょ
無防備な足の裏を
くすぐられていた


敵の仲間が増え
このはの腋の下に
手を入れる
あぁっ!?
あはははは!
腋はだめぇ~!
ぎゃはは!
くすぐった…
んぁはは!
こちょ
こちょ
こちょ
こちょ
バタ
バタ
初めて受ける
拘束された状態での
くすぐり攻撃に
このはは
今まで受けた
どの攻撃よりも
辛いと感じていた


ミアがこのはの助けを信じるのと同様に
んっ!?♡
そこは…♡
どちゅ
どちゅ
やめ…て…♡
こちょ
こちょ
いひぃ～
はぁ
お前たちなんかミアちゃんが来たら真っ二つに…
ぐひひひ！
はぁ
じゅぷ
バタ
バタ
こちょ
こちょ
このはもミアの助けを信じていた


しかし
当然ながら
助けは来ず
ぐに
ぐに
ぶははぁ！
あぁっ！♡
あんっ！♡
誰か…
だずげでぇ！
はぁ
はぁ
ぐぁははぁ！
こちょ
こちょ
もみっ
もみっ
じゅぷ
プシャアア


二人は
失禁しながら
遠のく意識の中
んぁはぁ！
ぐひゃひゃぁ！
死ぬぅぅ！
これ…
いつまで…
ぎゃはは！
はぁ
はぁ
こちょ
こちょ
もみ
もみ
ジタ
シャア
バタ
こちょ
こちょ
軽い気持ちでこの
「笑顔沼」に来たことを
後悔した


ぁぁ…ん♡
ぐぁ…ぁ♡
どちゅ
どちゅ
ごちょ
じゅぷ
ごちょ
ミア…
ぢゃ…ん
ぁぁ…
はぁ
…っ
はぁ
ジタ
ニャアア
バタ
ごちょ
ごちょ
二人が沼に沈んだ後
この「笑顔沼」は
攻略最高難易度である
Sランクのフィールドに
改められた


とある組織の不正の証拠を入手するため
バタ
夜間、女スパイとして組織への潜入を試みた「さき」だったが…
ゴタ
潜入に失敗して捕らえられたさきはくすぐり尋問を受けていた
こちょ
こちょ
「名前は？」
あはぁ!?
「所属先は？」
あはっ！
ちょっとやめっ…！
あはは！
「潜入した目的は？」
くすぐった…！
あはは！


「どうだ？くすぐったいか？」
「早く答えないといつまでも続くぞ？」
誰がっ…！
あはっ！
がははは！
お前たちに喋ることなんか…
ぎゃはは！
「そうか…」
こちょ
こちょ
バタ
ジタ
「やはり情報を聞き出すには
まだ時間がかかるか…」


『いいだろう』
『時間ならたっぷりある』
『そのまましばらく笑っていろ』
んひぇぁ!?
足ぃ〜!
いひひぃ〜!
いやぁぁ!
ぐしししぃ!
その後しばらくくすぐり尋問に耐えていた『さき』だったが…
もみもみ
ここちょ
バタバタ
ここちょ


『これならどうだ？』
『ほら、お前の名前は？』
ぎゃはぁっ!?
ぎゃひゃひゃぁ！
言えないぃ～！
ぐはははぁ！
『そうか…まだ足りないか』
『よほどくすぐられるのが好きらしいな』
こちょこちょこちょもみもみ
バタバタ
好きじゃないぃ～！
ぐへぁはは！
こちょこちょ


3日後…
「さき」からの連絡が途絶えたため追加で潜入を試みた「のあ」だったが
あはっ！
あはははは！
ちょっとぉ！
やめっ…
きゃはは！
きゃはははは！
こちょ
こちょ
ビタ
ビタ
さき同様に捕まってしまった


「まったく…次から次へと」
「もう分かってるが一応聞いておこう」
「名前、所属先、目的は？」
うひぃ～！
言うもんかぁ～！
いひひひ！
ぐひぇぁ！
んぎしし…！
もみ
もみ
バタ
バタ
「すぐには答えないことも知っている」


「お前たちはよほどくすぐられるのが好きらしいな」
んぁぁ！
ぎゃはは！
好きじゃないぃ！
やだやだぁ！
ぐわぁはは！
誰か助けてぇ！
ぐぁはは！
こちょこちょもみもみバタバタ
「いいだろうお前も同じ目に合わせてやろう」


一方別の部屋…
3日間くすぐられ続けた「さき」は…
ぐう…全…部…しゃべっ…たでしょ…ぶへぁ…
ぐう…やめ…て…
助げ…で…あへぁ…
はぁ
はぁ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
じにゅバタバタ
「そうね…聞きたいことはもう全部聞いたからそのまま安心して笑い死になさい」
そんなぁ…ぁ♡
キュゥゥ♡
キュゥゥ♡
あぁ…♡


とある国の
とある村
ここでは…
村のルールを
守れない子は
地下室に連れていかれ
裸にされてくすぐられる
という罰が与えられる
決まりになっている
あはっ！
ごめんなさいっ！
次はもう…
時間守るから！
だからやめてぇ！
きゃははは！
あははっ！
きゃはははぁ！
こちょ
こちょ
ガタ
ガタ
腋の下を
くすぐられているのは
村で決められた
門限を守らなかった
「ここみ」ちゃん


「門限が6時で帰ってきたのが6時45分…」
「超過分がそのまま罰になるから今回は45分よ」
45…分っ…!?
そんなの…
うひひっ！
耐えられるわけ…
ぎゃひひぃ！
いしししし！
こちょこちょ
こちょこちょ
こちょこちょ
こちょこちょ

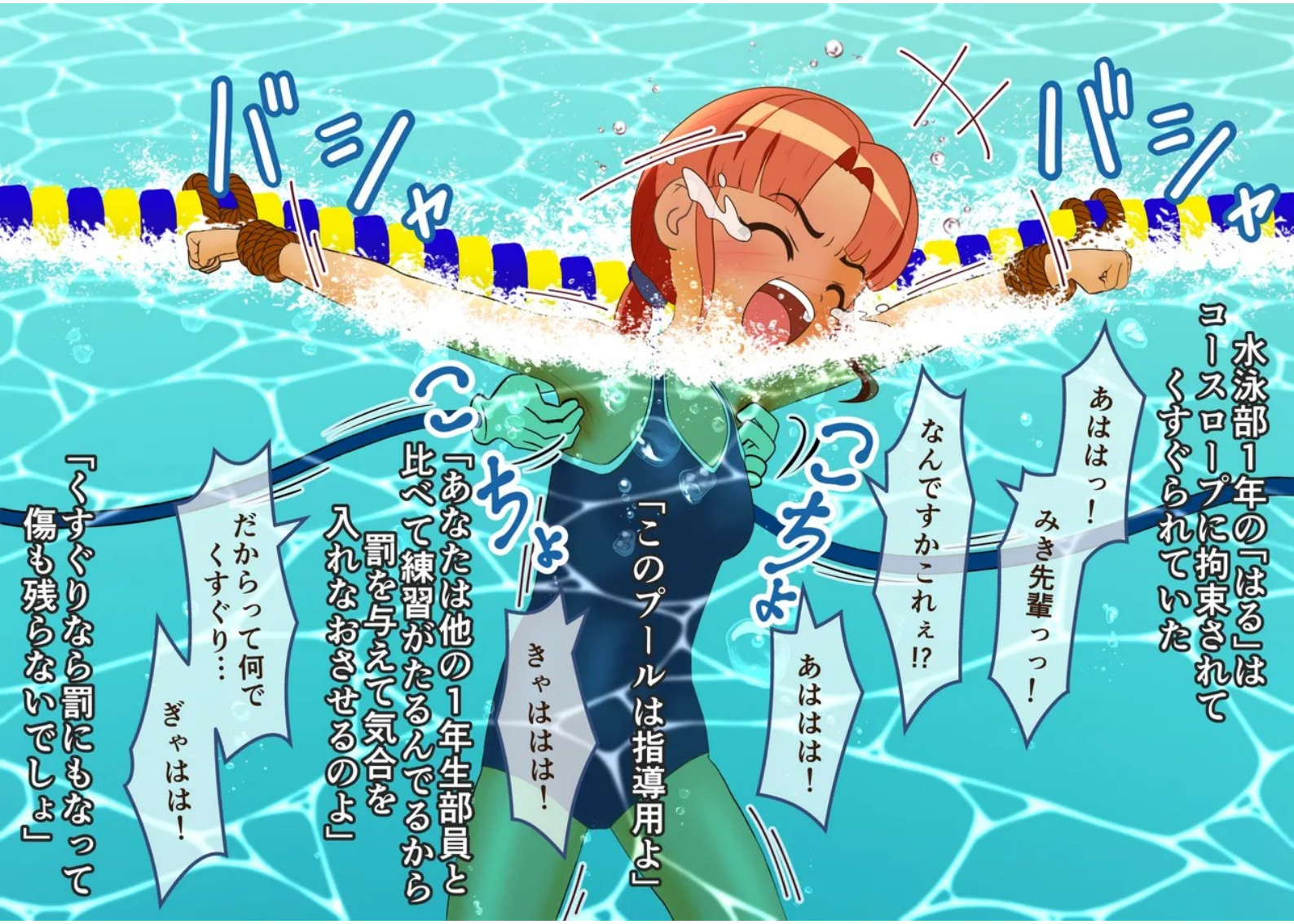

別の部屋
「ここみ」と一緒に門限を破った1歳上の友達の「まき」
いやぁ～！
んひひひ！
「「いや」じゃないでしょ？」
「あなたが悪いのよ？」
なんで…
ちょっと遅れただけ…
ぐはは！
ぎひひひ！
「全然反省してないわね」
「いいわ反省するまで笑ってなさい」
こちょ
こちょ
バタ
バタ


くすぐったさから
逃れようとケーブルを
引っ張る「まき」だったが
あはは！
きゃはは！
腋の下で激しく動く
手を払いのける
ことはできない
足もぉ!?
きゃはぁぁ！
やめっ…
ぎゃはは！
「今3分だから
あと57分よ」
57…っ!?
そんなの…
無理に決まって…
んぁあはは！
こちょ
こちょ
こちょ
こちょ
こちょ
バタ
バタ

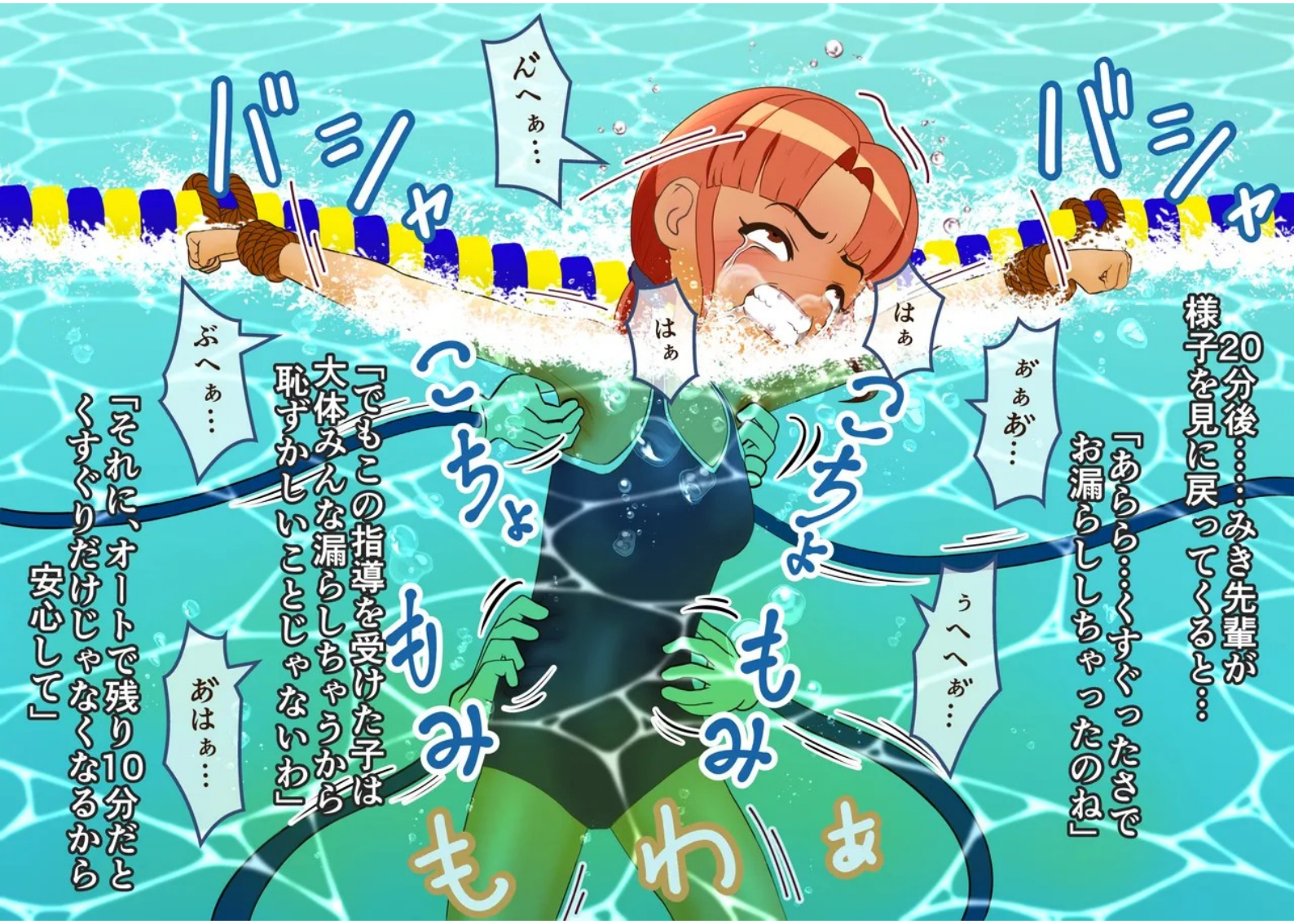

ぐぅ…っ！
む…りぃ…！
おしっこ…！
ぁあっ…！
「お漏らししちゃったみたいだけど…どう？反省した？」
ぐぅ…分かった！
反省…じまじ…たぁ！
ぐへぁはは！
「まだ反省してないみたいね」
「あなたはここみちゃんより1つお姉さんなんだから」
「ここみちゃんを連れ出して門限を破ったっていう意味ではより罪が重いのよ」
だからごめんってばぁ…ぁはは！
ビタ
バタ
こちょ
こちょ
こちょ
こちょ
プシャァァ


「だからあなたにはここみちゃんとは別にこういう罰も受けてもらうわ」
んあぁ!?
あぁっ…そこ…は…
あひひぃ！
あっ…ぐしし…
「私は一度退室するからあと50分の間にしっかり反省するのよ」
いひぃ～！あぁっ…ん…
はぁ
はぁ
ごっ
ごにゅ
こちょ
こちょ
じゅぷ
こちょ
こちょ
こちょ
ジタバタ
シャアア


くすぐり開始から12分…
「あらぁ…かわいそうに」
「お漏らしするほど苦しいのね」
ぶわはは！
ぎゃはは！
むっ…やめっ…！
ぐひゃひゃぁ！
「でも村の決まりだからあと33分頑張ってね」
むぅりぃ～！
ジョボボ
こちょこちょ
こちょこちょ
2人はその後門限を破ることはなかった…


バシャ
バシャ
水泳部1年の「はる」はコースロープに拘束されてくすぐられていた
あはは！
みき先輩っ！
なんですかこれぇ!?
こちょ
こちょ
あはは！
きゃはは！
「このプールは指導用よ」
「あなたは他の1年生部員と比べて練習がたるんでるから罰を与えて気合を入れなおさせるのよ」
だからって何でくすぐり…
ぎゃはは！
「くすぐりなら罰にもなって傷も残らないでしょ」


バシャ
バシャ
みき先輩が手元のボタンを押すと…
っ!?
やめてやめて!
お腹揉まないでぇ〜!
いひひぃ〜!
「はるちゃんはお腹も弱いのね」
もみ
もみ
ぐへぁはは!
ぐひひ!
「あとはオートモードでタイマーを30分にセットして…」
「悪く思わないでね部長の指示だから」
30っ…!?
そんなっ…
「じゃあ30分後にまた来るわね」
あひぃ〜!
いやぁぁ〜!


20分後……みき先輩が様子を見に戻ってくると…
「あらら…くすぐったさでお漏らししちゃったのね」
「でもこの指導を受けた子は大体みんな漏らしちゃうから恥ずかしいことじゃないわ」
「それに、オートで残り10分だとくすぐりだけじゃなくなるから安心して」
バシャ
バシャ
んへぁ…
ぶへぁ…
はぁ
はぁ
ぁぁあ…
うへへぁ…
あはぁ…
こちょ
こちょ
もみ
もみ
わ
も
ぁ


みき先輩がそう言うと
新たに手が加わり
はるの一番敏感な部分に
手を入れた
っっ!?
あぁっ…ん♡
あ…ん♡
先…輩
ぅう…
やめ…て
バシャ
バシャ
はぁ
はぁ
ぐにっ
ぐにっ
こちょ
こちょ
もみ
もみ
「ふふふ…どう？
これなら苦しいだけじゃ
ないからまだ良いでしょ？」
助け…
はぁ…ん♡
7分後…
はるは気を失った

次の日、指導用プールに入れられていたのはその「みき」先輩

「2年生のあなたが1年生にタイムで負けるなんて…」



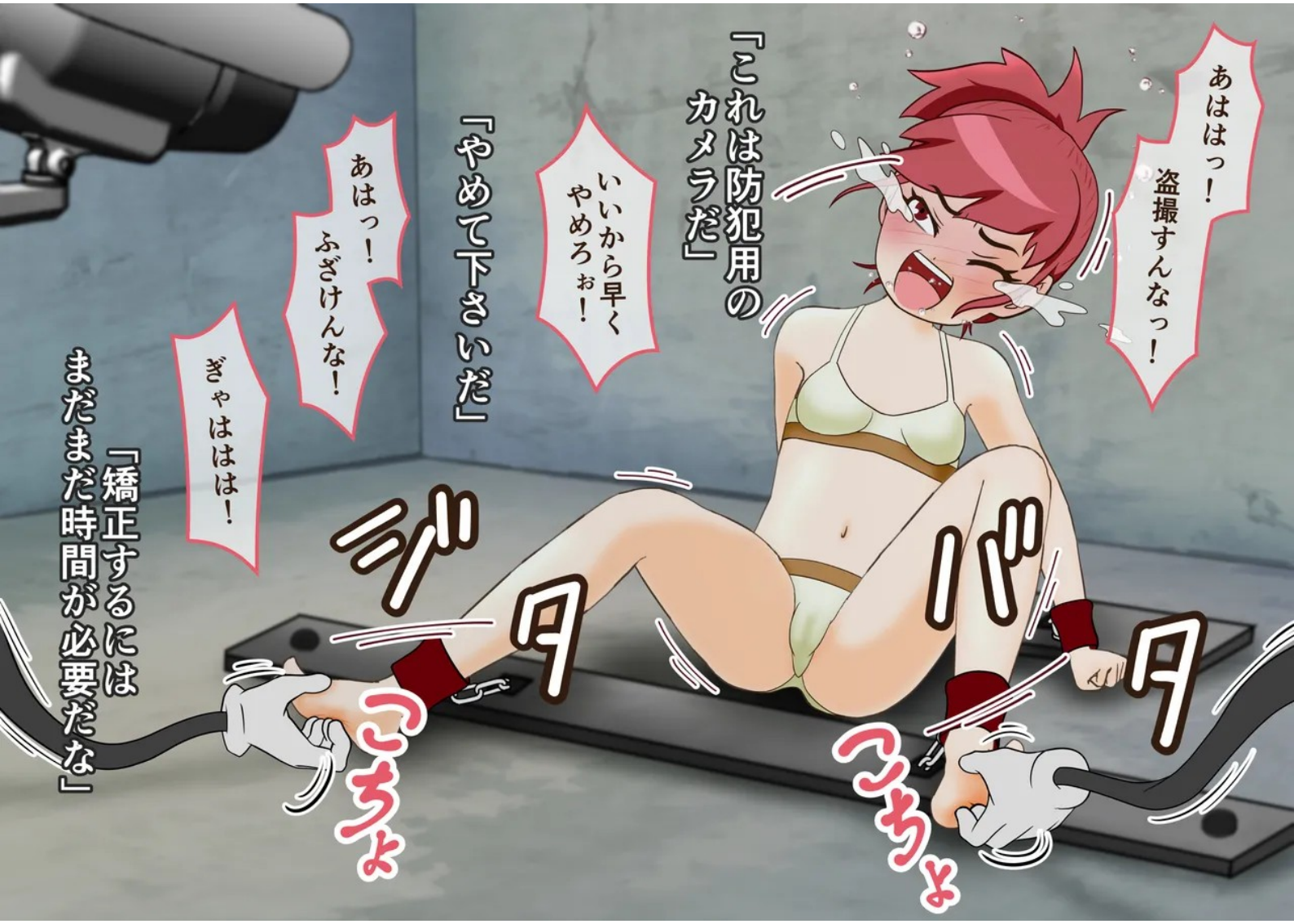
そう言いながらボタンを持つのは部長


「油断し過ぎよ…
久々に笑い狂いながら
反省しなさい」
うへぁはは！
いひひひ！
ぎひひぃ！
「タイマーは1時間よ」
1じか…!?
嘘でしょ～
バシャ
バシャ
いひぃ～！
部長ぉ～
もみ
もみ
そう言ってボタンを押した後
部長は去っていった


残りまだ50分…
くすぐったさで
お漏らししてしまうが
その様子を
誰が見るわけでもなく
ただ一人、笑い悶えていた
んひひぃ～！
ぐひぃ～
もっ…だめぇ～！
部長ぉ～！
ぐひひ～！
バシャ
バシャ
こちょ
こちょ
もみ
もみ
もぁ
もぁ
誰かっ…
助けっ…
ぎゃひひぃ！


残り40分…オートによる
性的刺激が追加される
っ!?
ぢぁぁ…
あっ…♡
あがぁ…♡
…っ!
かはっ…
はぁ
はぁ
バシャ
ごちょ
もみ
ぐにゅ
きゅうう♡
その後の40分間、みきは
失神と目覚めを繰り返しながら
二度と下級生には負けないと誓った


日頃から同級生に対して
いじめを行っていたとして
とある矯正施設に
収容された「かな」
おいっ！
何だこれ!?
あはは…
やめっ…！
あはっ…！
あはは！
こちょ
こちょ
ビタ
バタ
ここは収容者をくすぐることで
罰を与え、反省を促すことを
目的としたくすぐり矯正施設である


あはは っ！
盗撮すんなっ！
「これは防犯用のカメラだ」
いいから早くやめろぉ！
「やめて下さいだ」
あはっ！ふざけんな！
ぎゃはは は！
「矯正するには まだまだ時間が必要だな」
バタ
バタ
こちょ
こちょ


言葉では強がっていた
「かな」だったが10分後には…
ぐはは！
ぐうっ…
分かったから…
どうすれば…
ぐひひ！
こちょ
こちょ
こちょ
こちょ
ビタ
ビタ
プシャァァ
「分かったではなく
分かりましただ」
分かりまじた
ごめん…なさい
ぐぁはは！
ぎひひ…！
「まぁ良い…
次のメニューに移ろう」


「次はこれだ…」
ぁぁっ!?
お…い!
はぁ
はぁ
だました…な…ぁ
終わりじゃないのかよ!
今度は何だっ!?
「終わりなんて一言も言っていない」
ぐにぐに
「それに、言葉使いがまた荒くなってきたな」
んぁ…♡
んっ…♡
いい加減やめ…
あぁ…♡
「やはりまだ時間をかけて矯正する必要がありそうだな」
じゅぽ
バタ
バタ


「とりあえずこの状態で明日の朝まで放置してみるか」
また…くすぐり!?
しかも明日までって…
無理に決まってるだろぉ～!
だぁはは!
はぁ
はぁ
こちょ
こちょ
こちょ
こちょ
ビクビクに
「いじめは最低の行為だからなこれくらいの罰は当然だ」
ぐわはは!
あ…ん♡
…ぁ♡
バタバタ
プシャァァ
「じゃあ我々は今日のところは帰るから」
「今日1日笑い苦しんで後悔しながら反省するように」
ちょっとどこ行く気よ!
誰かぁ～!





































